

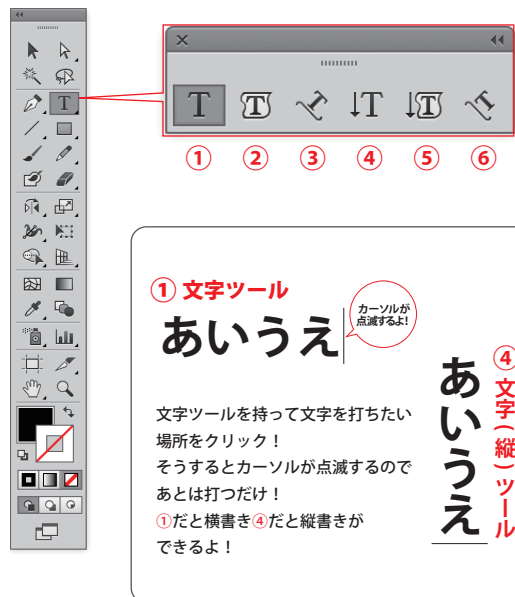
文字ツールを使う / 文字をアウトライン化する

Illustrator で文字を打つ時、文字ツールを使って文字を打ちますが、文字ツールには色々な種類があります。

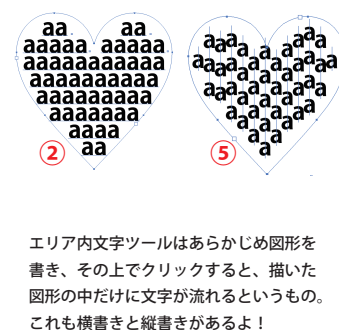
ここではそれぞれの使い方を解説します。

また、文字には様々な書体を選べます。しかしその書体を別の PC で開く際同じ書体が入っていないと、文字化けしてしまったり、別の書体に置き換わってしまったりします。そこで「文字のアウトライン」をすると文字が書体からパスに変わるため、文字化けしなくなります。

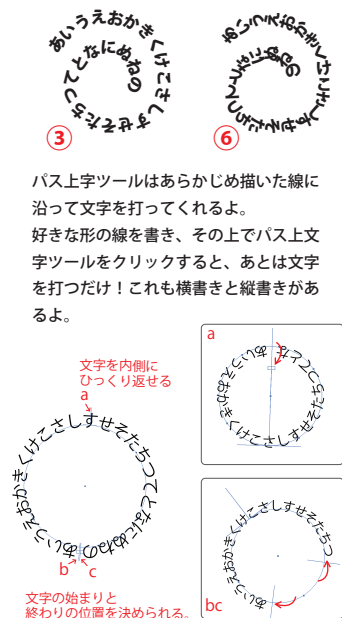
●文字を打つ【文字ツールをつかう】



② ⑤ エリア内文字ツール



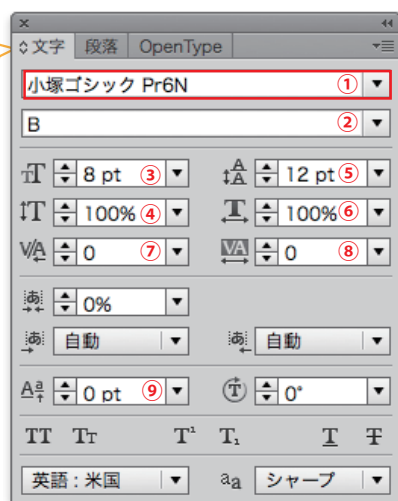
③ ⑥ パス上文字ツール



●書体を変える【文字パネルをつかう】

文字パネルは [ウィンドウ] → [書式] → [文字] で出せますが、**⌘**コマンド (ctrl)+T でも出せます。

タブをクリックすると詳細が開くよ。



文字パネルは [ウィンドウ] → [書式] → [文字] で出せますが、**⌘**コマンド (ctrl)+T でも出せます。

- ① 書体を選ぶ (PC にインストールされている書体から選べます。)
- ② ファミリーを選ぶ (ファミリーとは同じ書体でも太さなどが異なるセットです。)
- ③ 文字の大きさを選ぶ (pt ポイントとは文字の大きさの単位です。)
- ④ 文字の垂直比率を選ぶ (100% 以上の数値にすると、文字が縦に伸びていきます。)
- ⑤ 行間の空きを選ぶ (2 段以上の文を打つ時の行間の大きさを設定できます。)
- ⑥ 文字の水平比率を選ぶ (100% 以上の数値にすると、文字が横に伸びていきます。)
- ⑦ 文字間のカーニングを設定する (字と字の間の間隔を設定できます。)
- ⑧ 文字のトラッキングを設定する (文全体の詰めを設定できます。)
- ⑨ ベースラインシフトを設定する (文字の位置を上げ下げできます。)

●文字をアウトラインする【文字を選択する】→【メニューバーの書式】→【アウトラインを作成】



文字ツールで文字を打った状態。文字の打ち換えができるけれど、作業環境が変わると文字化けしたり書体が起き変わる可能性がある。

文字をアウトライン化してパスにした状態。文字の打ち換えができないけれど、作業環境が変わってもこのままの見てくれを保てる。

アウトライン化すると、パス化されるので、ダイレクト選択ツールでパスを動かして好きな形を作ることができるよ！
パスを増やしたければ、ペイントツールを長押しすると出る「アンカーポイントの追加ツール」でパス上をクリックするとパスが増えるよ！

